

裁量トレードの考え方

ポジションを保有する時間によって、トレードスタイルが変化する。保有時間が長ければ長いほど、各国の経済情報によって相場が動かされるようになるため、ファンダメンタルズ分析の重要度が上がる。

方法	スキャルピング	デイトレード	スイング
保有時間	数秒～数十分	数十分～数時間	複数日
ファンダメンタルズ	0～1割	1～3割	3～5割
テクニカル	9～10割	7～9割	5～7割
獲得pips (/トレード)	1～20	10～100	100～

基本的な手順

- ①ファンダメンタルズ分析にて、各要因の重み付けを行い、ざっくりと方向性を考える。
- ②複数のテクニカル分析を組み合わせて、エントリーポイントとイグジットポイントを割り出す。
- ③タイミングが来たらトレード。

裁量トレード手法

使用するテクニカル分析

種類	内容	重要度
水平ライン	サポートライン、レジスタンスライン、ラウンドナンバー	◎
トレンドライン	上昇トレンド、下降トレンド、チャネル	○
チャートパターン	トライアングル、フラッグ、ダブルトップ、ダブルボトム、カップ&ハンドル、三尊、ソーサー	○
移動平均線	20SMA、50SMA、200SMA	△
ボリンジャーバンド	20SMAの2σ、3σ	△
ダウ理論	高値安値	○
エリオット波動	推進波1～5波+修正波A～C波	◎
フィボナッチ数列	0.382倍、0.618倍	◎

重要度◎のテクニカルは必須の項目で、その他のテクニカルは合致していればしているほど確度が上がる

エリオット波動とフィボナッチの関係

エリオット波動とフィボナッチ数列の関係一覧

波の種類	カウント	内容	狙える所
推進波	1波	ダウ理論から高値更新または安値更新して反発が確認されたトレンドの波	—
	2波	1波の50%または61.8%戻し	△
	3波	1波の1.618倍か2倍	◎
	4波	1～3波または3波の38.2%戻し	△
	5波	1波の1倍か1.618倍	○
修正波	A波	チャンネルラインを外れてレジサポ転換する	—
	B波	A波の50%か61.8%戻し	△
	C波	A波の1倍か1.618倍	◎

3波とC波が狙いやすいポイント。
状況によっては5波も狙える。2波とB波は無理して狙う必要はない。

エントリーポイントの例

